

社会学部

I 2022 度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2022 度大学評価結果総評】(参考)

社会学部において、2018 年度から導入された新カリキュラムの円滑な運営を図る中で、語学についても 2022 年度から新カリキュラムがスタートすることができたことは評価できる。これらの新しいカリキュラム体系の運用と教育効果について、しっかりと検証していくことが求められる。

学部 FD 委員会において、基礎演習や専門演習など、教育内容の向上に継続的に取り組んでいる点、複数教員が連携する授業では互いに授業方法について検討し、授業の質の向上に努めている点が高く評価できる。

今後、昨年度の質保証委員会からの提言にあるように、With コロナ、ポストコロナに向けて、対面授業とオンライン授業をそれぞれどのように運営し、カリキュラム全体の中でどう配置するのか、どのような時間割編成が望ましいのかについて継続的に検討することが望まれる。さらに、すべての学生の学修成果を的確に把握することについても、さらなる検討を進めることが期待される。

また、社会貢献・社会連携については、多摩地域交流センターを通じて、多摩キャンパスの資源を活用しながら、より一層活発な取り組みが行われることを期待したい。

【2022 度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

対面授業／オンライン授業の選択については、各科目担当教員がその教育効果を高めるための方法として選択していくが、そのための実践結果の情報を共有していきたい。さらに、カリキュラム上での扱いについては、各コース、学科、科目区分ごとの教員グループで検討を促したい。時間割編成と履修年度進行は時間割や教室割等を考慮しながら、初年度履修科目を中心に、2 年生以上の専門科目でスムーズな理解が出来る様な先行知識の習得が可能になるように構成を検討する。

学生の学修成果をについては、学部執行部に提供された成績上位者・下位者のデータを手始めとして分析し、授業改善アンケート結果も合わせて、具体的に何が出来るかを執行部と教務委員会から検討を始めている。

多摩地域交流センターから改組されたソーシャル・イノベーションセンターを介して周辺自治体とのコラボレーションが検討されている。当初は小さな試みになるかもしれないが、より多くの学生が参加できるように、展開していきたい。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 授与する学位ごとに、学位授与方針を定め、公表しているか。

1.1①授与する学位ごとに、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を記入してください。

ディプロマ・ポリシー

社会学部では、所定の単位を修得し、以下に示す水準に達した学生に対して「学士(社会学)」を授与する。

全学科にわたり必要とされる能力は、以下の通りである。

社会学などの社会諸科学を中心とした学際的な学びによって、社会現象に関する問いを立てることができる。: DP1

データや資料の分析によって問いに対する答えを見出すことができる。: DP2

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

問題解決の方法を構想することができる。：DP3
 それらを人々にわかりやすく伝える手法を駆使することができる。DP4
 これに加えて、学科ごとに必要とされる能力は、以下の通りである。

社会政策科学科

- (1) 経済学、経営学、財政学、行政学、法律学、政治学、社会学などの知識を身につけている。：DP5
 (2) 社会諸科学の知識を用いて、現代社会のさまざまな政策課題を発見・分析できる。：DP6
 (3) 課題を解決するための政策づくりを、市民の視点で担える。：DP7

社会学科

- (1) 社会学の諸理論の視点から、現実社会の構造と過程を捉えることができる。：DP8
 (2) 社会調査をはじめとする経験的手法を用いて、変化し続ける社会の実態を科学的に捉えることができる。：DP9
 (3) 社会学の理論と方法を通して、より良い社会と人々の生き方を構想できる。：DP10

メディア社会学科

- (1) メディアとそれを取り巻く環境を捉えるための関連諸科学の知識を身につけている。：DP11
 (2) メディアと社会の関係を、メディア研究の手法によって分析できる。：DP12
 (3) 最新のメディア技術を利用して、社会的諸課題の解決に寄与するメディアの表現と設計ができる。：DP13

1.1②上記のディプロマ・ポリシーには、学生が修得することが求められる知識、技能、態度等、当該学位にふさわしい学習成果が示されていますか。

はい

1.1③上記のディプロマ・ポリシーを公表していますか。

はい

【根拠資料】

<https://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/policy/diploma/>

1.2 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。

1.2①授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）を記入してください。

カリキュラム・ポリシー

社会学部では、学士資格に相応しい専門的知識を学修し、幅広い視野と総合的な判断力を身につけることができるように、次のような指針のもと教育課程を編成する。

4年間一貫教育：大学4年間を一貫した体系のなかで捉える。

2つの科目群：授業科目を、「総合科目」「学科専門科目」という2つの科目群に体系的に整理する。

3つの教育段階：2つの科目群を、「入門期」（1年次）、「能力形成期」（2～3年次）、「総仕上げ期」（4年次）という3つの教育段階に沿って段階的に編成する。

学科別カリキュラム：各学科の「学科専門科目」を、「入門科目」、「学科共通基礎科目」、「学科共通展開科目」、「コース専門科目」に体系化し、集積的な学修を可能にする。「入門科目」、「学科共通基礎科目」、「学科共通展開科目」により、学科での学修に必要な理

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

論と方法を身につけさせる。同時に、専門分野あるいは対象領域によって区分された「コース専門科目」を学修させることで、学生各自の関心を掘り下げさせる。各学科には次のコースを設ける。

【社会政策科学科】 「企業と社会」、「サステナビリティ」、「グローバル市民社会」

【社会学科】 「人間・社会」、「地域・社会」、「文化・社会」、「国際・社会」

【メディア社会学科】 「メディア表現」、「メディア分析」、「メディア設計」

少人数教育：「総合科目」「学科専門科目」の学修とあわせ、1年次の基礎演習と2年次以降の専門演習において、少人数での教育を徹底する。

1.2②上記のカリキュラム・ポリシーには、学習成果の達成を可能とするための教育課程の編成（教育課程の体系、教育内容）・実施（教育課程を構成する授業科目区分、授業形態等）方針が示されていますか。	はい
--	----

1.2③上記のカリキュラム・ポリシーを公表していますか。	はい
------------------------------	----

【根拠資料】

<https://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/policy/curriculum/>

1.3 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

1.3①「法政大学学則」第23条（単位）に基づいた単位設定を行っていますか。	はい
--	----

1.4 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

1.4①「法政大学学則」第22条の2（履修科目の登録の上限）に基づき、1年間又は学期ごとの履修登録単位数の上限設定を行っていますか。	はい
--	----

1.4②学生の履修指導を適切に行っていますか。	はい
-------------------------	----

1.4③学生の学習指導を適切に行っていますか。	はい
-------------------------	----

1.4④学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行っていますか。	はい
---------------------------------------	----

1.4⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。	はい
---	----

1.4⑥シラバスの内容の適切性と授業内容とシラバスの整合性を確保していますか。	はい
---	----

【根拠資料】

各年度履修要綱

<https://hosei-hondana.actibookone.com/category/list?param=eyJjYXRlZ29yeV9udW0iOjY4MDd9>

社会学部 シラバス

https://syllabus.hosei.ac.jp/web/head.php?gakubueng=AE&t_mode=sp

1.5 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

1.5①「法政大学学則」別表(10)「認定単位の上限」に基づき、既修得単位などの適切な認定を行っていますか。	はい
--	----

1.5②「法政大学学則」第17条（卒業所要単位）に基づき、卒業の要件を明確にし、刊行物、ホームページ等のいずれの方法によっても、予め学生に明示していますか。	はい
--	----

1.5③成績評価の客観性、厳格性、公正性、公平性を担保するための措置を講じていますか。	はい
---	----

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

【根拠資料】
教務委員会、教授会回覧資料（転編入学生個別審査結果の回覧審議承認）、 各年度履修要綱 https://hosei-hondana.actibookone.com/category/list?param=eyJjYXRlZ29yeV9udW0iOjY4MDd9

1.6 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。

1.6①授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーを記入してください。

アセスメント・ポリシー	
社会学部では、学生の学修成果について、アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）の3つのポリシーに照らして、下記のとおり検証を行う。	
<教育課程におけるアセスメント・ポリシー>	
入学段階において、各種入学試験における成績や調査書等の記載内容、新入生アンケート調査、外部英語能力試験等を用いて、アドミッション・ポリシーで求める能力・意欲が身につけているかの評価を行う。 「入門期」（1年次）においては、入門科目や総合科目を通じた導入教育、基礎演習等の少人数教育やアクティブラーニングの場での取り組みと成果を通じて、大学生に必要な自主的な学習方法が身につけているか、視野を広げ社会現象への関心が深められているかの評価を行う。 外国語カリキュラムや外部英語能力試験、SAプログラム、単位認定海外短期留学制度等の成果を通じて、世界で生き抜く能力、国際通用性が養われているか評価を行う。 「能力形成期」（2～3年次）においては、講義科目や実習科目等の授業内での学習・研究活動の発表、専門演習における論文執筆、作品制作等の教育ならびに研究成果の実績・評価等を用いて、ディプロマ・ポリシーが求める専門知識・能力―「社会現象に関する問いを立てることができる」「データや資料の分析によって問いに対する答えを見出すことができる」「問題解決の方法を構想することができる」「それらを人々にわかりやすく伝える手法を駆使することができる」―が身に付いているかの評価を行う。 「総仕上げ期」（4年次）では、卒業論文、単位修得状況、成績評価等を用いて、ディプロマ・ポリシーで求める上記の専門知識・能力が身につけているかの評価を行う。 卒業時には、就職状況、卒業生アンケート等を用いて、「自由を生き抜く実践知」が身につけているか評価を行う。	
<科目ごとのアセスメント・ポリシー>	
科目ごとの学生の学修成果については、シラバスに定める「成績評価の方法と基準」に基づき、「到達目標」に掲げる知識、能力が身につけているか評価を行う。	

1.6②上記のアセスメント・ポリシーは、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標となっていますか。	はい
1.6③授与する学位ごとに、アセスメント・ポリシーに基づき学生の学習成果を把握していますか。	はい
1.6④学習成果を可視化していますか。	はい

【根拠資料】
「能力形成期」（2～3年次）においては、学部研究発表会でゼミやグループでの研究発表を行っている。また「総仕上げ期」（4年次）については卒業論文の中から優秀卒論を選考し、「優秀卒業論文集」を刊行している。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

1.7 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。
また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

1.7①授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。	はい
1.7②大学評価室による学生調査結果（入学前アンケート・1年生アンケート・卒業生アンケート）を組織的に利用していますか。	はい
【根拠資料】	
執行部で内容確認し、教授会で共有している（教授会資料、議事録）	

(2) 特色・課題

<p>以下の項目の中で、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。</p> <p>【教育課程・教育内容】【教育方法】【学習成果】それぞれの項目の中で「特色」または「課題」を選択し、内容について記入してください。</p>	
<p>【教育課程・教育内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育目標、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーの適切性と関連性の検証 ・学生の能力育成のための、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容の適切な提供 ・教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等含む）への配慮が行われている。また教養教育と専門科目の適切な配置が行われている。） ・幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程の編成 ・初年次教育・高大接続への配慮 ・学生の国際性を涵養するための教育内容の提供 ・学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育の適切な実施 	
課題	<p>教育課程の編成にあたっての順次性及び体系性への配慮（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等含む）への配慮が行われている。また教養教育と専門科目の適切な配置が行われている。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題として、2年生以上で履修する専門科目にとって有用な科目を1年生全員が選択可能な時間割への移行が望まれる。ただし、必修科目の時間割上の配置あるいは教室配置に課題がある。科目種類別にゾーン制を設定しているが、その見直しを含めて、そして次年度の時間割編成における教員への事前の情報提供も含めて1年生がより履修しやすい環境を検討する。
<p>【教育方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等） ・授業がシラバスに沿って行われているかの検証（後シラバスの作成、相互授業参観、アンケート等） 	
課題	<p>教育上の目的を達成するための、効果的な授業形態の導入（PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業方式については、大規模授業に限定せず、各担当教員がより高い教育効果を得られる方法を選択している。アクティブラーニングを取り入れるかどうかも教育効果の観点から、各教員が適切な程度で導入している。PBLについても、各担当教員と外部との連携の程度に応じて、教育効果の観点から取り入れている場合がある。 ・授業がシラバスに沿って行われていない場合、社会学部生は事務課に申し出ることがあるが、その実績はほとんど無い。発生した場合には、執行部が当該教員と対応する事としている。授業改善アンケートに学部独自項目として入れていたが、そうでないとの回答がほとんどないためか、教授会で一旦外すことが審議承認されて、休止している。
<p>【学習成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績評価及び単位認定を行うための制度や学位授与の実施手続き及び体制についての適切な運用。 ・アセスメント・ポリシーに基づいた学習成果を把握する取り組み ・アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を定期的に検証し、その結果をもとにした教育課程およびそ 	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

の内容、方法の改善・向上に向けた取り組み	
課題	アセスメント・ポリシーに基づき学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程およびその内容、方法の改善・向上に向けた取り組み
特に、外国語教育のカリキュラム改編がなされて2年目であり、初年度の状況検証などが外国語教育委員会で検討される予定である。	
その他、上記項目以外で学部として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	
秋学期に学部研究発表会を開催している。主に演習（ゼミ、2，3年生）単位での発表が多い。ゼミ相互間での学習内容の共有とともに、1年生の2年次以降での演習選択の情報提供としても役立っている。	
課題	
各科目における成績評価結果と授業改善アンケート回答との関係を得られないため、より適切な対応をどのような情報に基づいて進めればよいかを模索しなければならない。	

2 学生の受け入れ

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 学生の受け入れ方針を定め、公表しているか。

2.1①学部ごとに学生の受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)を記入してください。	
アドミッション・ポリシー	
社会学部では、社会現象に幅広い関心を持ち、学習・研究活動を通して社会に積極的に関わる意欲を持つ、次のような人材を歓迎します。	
入学後の修学に必要な基礎学力を有している。 物事を論理的に考察することができる。 自分の考えを的確に表現できる。 入学後の修学に必要な学習意欲や問題関心を有している。 社会現象を多面的にみる態度を有している。	
一般選抜(A方式、T日程、大学入学共通テスト利用入試)では、「国語」「英語」の他、「日本史」「世界史」「地理」「政治・経済」「数学」の試験科目を通して、総合的基礎学力を評価する(上記1～3)。	
英語外部試験利用入試では英語外部試験(英検、TOEFL、IELTS、TOEIC、TEAP、GTEC、ケンブリッジ英検)のスコアと「国語」または「数学」の試験科目を通じて、総合的基礎学力を評価する(上記1～3)。特に「国語」や「数学」で卓越した学力を評価する。	
学校推薦型選抜(指定校推薦、付属校推薦、スポーツ推薦入試)では、基礎学力の一定の評価(上記1～3)を前提に、作文、面接等で学習意欲、問題関心等を評価する(上記4、5)。	
外国人留学生入試、転・編入試では、基礎学力と学習意欲、問題関心を確認するとともに(上記1～5)、多様な学生を受け入れることによって、学部の活性化を心がけている。	
2.1②上記のアドミッション・ポリシーには、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーを踏まえた、入学前の学習歴、学力水準、能力等の求める学生像や、入学希望者に求める水準等の判定方法が明確に示されていますか。	はい
2.1③上記のアドミッション・ポリシーを公表していますか。	はい
【根拠資料】	
https://www.hosei.ac.jp/shakai/shokai/policy/admission/	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

2.2 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。

2.2①アドミッション・ポリシーに基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制をどのように適切に整備していますか。また、入学者選抜をどのように公正に実施していますか。

各入学試験方式ごとに執行部内で主に前年度状況から当該年度の定員数、実施方法、担当者を検討し、結果を教授会で審議承認の後、実施している。特別入試においては、担当委員と入試委員とで面接前のミーティング、面接後の意見交換を通じて、偏りの無い評価になる様に心がけている。

2.3 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。

2.3①【2023年5月1日時点】学部・学科における入学定員充足率の5年平均又は収容定員充足率は、下記の表1の数値を満たしていますか。 はい

2.4 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。

2.4①上記項目において【いいえ】と回答した場合は、その理由と改善に向けた今後の取り組みについて記入してください。

表 1

学部・学科における過去5年間の入学定員に対する入学者数比率の平均	0.90～1.20 未満
学部・学科における収容定員に対する在籍学生数比率	0.90～1.20 未満

3 教員・教員組織

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 大学の理念・目的に基づき、大学として求める教員像や各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。

3.1①学部の求める教員像および教員組織の編成方針を記入してください。

社会学部の理念・目的、教育目標、ディプロマ・ポリシーを理解し、カリキュラム・ポリシーに沿って学生を指導し、学生たちの自己探求と社会問題への取り組みを多様な形で促進・媒介・指導することのできる教員を求める。

また教員組織の編制方針は、本学部のカリキュラム・ポリシーに従って、学生への教育責任を果たすことができるよう、教育課程を構成する3段階(「入門期」[1年次]、「能力形成期」[2～3年次]、「総仕上げ期」[4年次])において、各専任教員がその一翼を担える仕組み作りを行なう。

具体的には以下のとおりである。

第1期である学部教育への入門期では、各学科入門科目群は原則として専任教員が担当する。その要である基礎演習担当は原則として開講科目数の半分を専任教員が担当する。第2期(能力形成期)では、コース専門科目は、可能な限り専任教員が担当する。また専門演習である「演習1」と「演習2」は専任教員が担当する。大学生活の総仕上げである第3期では、とりわけ卒業論文作成の指導を実質的内容とする「演習3」は専任教員が担当する。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

(<https://www.hosei.ac.jp/hosei/daigakugaiyo/rinen/hoshin/kyouinzo/gakubu/>)

3.2 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。

3.2①学部の教員組織の編制は、理念・目的、教員組織の編制方針に整合していますか。	はい
3.2②教員組織の規模について、教育研究上必要となる数の専任教員がいますか。	はい
3.2③専任教員の専門性や、主要科目への配置など、教育を実施するうえでどのような体制をとっていますか。	
専門科目の学科ごとのコース制に従って、それぞれのコースでの専任教員の配置を行っている。	

3.3 教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。

3.3①教員の募集、採用、昇任等の手続きや運用に関する規程は整備されていますか。	はい
3.3②上記の規定は、公正性、適切性が担保されるよう適切に運用されていますか。	はい
【根拠資料】	
社会学部内規及び選考委員会、教授会での審議（議事録）	

3.4 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

3.4①学部（学科）内のFD活動は組織的に行われていますか。	はい
3.4②上記項目について【はい】と回答した場合は、2022年度のFD活動の実績（開催日・テーマ・参加人数）を記入してください。	
FD委員会の活動内容は以下の通りである。必要に応じて執行部・教授会に報告されている。	
<p>第1回 日時：2022年4月26日 13:40～@zoom 委員：6 1. 委員長の選出 2. 2021年度FD委員会の活動について 3. 2022年度の課題について 4. 業務の確認と担当者の決定 5. ゲスト講師申請の承認について（配布）</p> <p>第2回 日時：2022年5月10日（火）13:40～@zoom 委員：6 1. 議事録の確認 2. 学習サポーター・大規模授業アシスタントについて 3. ゲスト講師について 4. 検討課題 (1) ゲスト講師の申請手続きの簡略化 (2) FD委員会の開催頻度・方法 5. その他</p>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

第3回

日時：2022年5月24日（火）13:40～@zoom

委員：6

1. 議事録の確認
2. 学習サポーター・大規模授業アシスタントについて
3. ゲスト講師について
4. 検討課題
 - (1) 日程案（執行部の依頼）
 - (2) 学部研究発表会の開催方法
 - (3) ゲスト講師の申請手続きの簡略化
 - (4) FD委員会の開催頻度・方法
5. 今後の予定

第4回

日時：2022年6月7日（火）13:40～@zoom

委員：6

1. 議事録の確認
2. 学習サポーター・大規模授業アシスタントについて
3. ゲスト講師について
4. 検討課題
 - (1) アナウンス（6/7教授会？）
 - (2) ゼミ紹介パンフレットの原稿依頼＋ゼミ紹介 Weeks 対応アンケートの予定
 - (3) ゲスト講師の申請手続きの簡略化
 - (4) FD委員会の開催頻度・方法
5. 今後の予定

第5回

日時：2022年7月5日（火）13:40～@zoom

委員：6

1. 議事録の確認
2. 学習サポーター・大規模授業アシスタントについて
3. ゲスト講師について
4. 検討課題
 - (1) ゲスト講師の特例採用（秋学期）
 - (2) ゲスト講師における教員の相互授業参観（執行部依頼）
 - (3) 直近スケジュール
5. 今後の予定
 - (1) ゼミ紹介パンフレットの原稿依頼＋ゼミ紹介 Weeks 対応アンケート
 - (2) 学部研究発表会
 - (3) 『2021年度 FD委員会報告書』の作成（2月～）
 - (4) 委員数の検討

第6回

日時：2022年9月20日（火）13:40～@zoom

委員：6

1. 議事録の確認
2. 学習サポーター・大規模授業アシスタントについて
3. ゲスト講師について
4. 検討課題

- (1) ゲスト講師制度改革（試行期間中）
5. 今後の予定
- (1)ゼミ紹介パンフレットの原稿依頼＋ゼミ紹介 Weeks 対応アンケート
- (2)学部研究発表会
- (3)『2021年度 FD 委員会報告書』の作成（2月～）
- (4) 委員数の検討

第7回

委員：6

日時：2022年10月11日（火）13:40～@zoom

1. 議事録の確認
2. 学習サポーター・大規模授業アシスタントについて
3. ゲスト講師について
4. 検討課題
- (1) ゲスト講師制度改革（試行期間中）
5. 今後の予定
- (1)ゼミ紹介パンフレットの原稿依頼＋ゼミ紹介 Weeks 対応アンケート
- (2)学部研究発表会
- (3)『2021年度 FD 委員会報告書』の作成（2月～）
- (4) 委員数の検討

第8回

日時：2022年10月25日（火）13:40～@zoom

委員：6

1. 議事録の確認
2. 学習サポーター・大規模授業アシスタントについて
3. ゲスト講師について
4. 検討課題
- (1) ゲスト講師制度改革（試行期間中）
5. 今後の予定
- (1)ゼミ紹介パンフレットの原稿依頼＋ゼミ紹介 Weeks 対応アンケート
- (2)学部研究発表会
- (3)『2021年度 FD 委員会報告書』の作成（2月～）
- (4) 委員数の検討

第9回

日時：2022年12月6日（火）13:40～@zoom

委員：6

1. 議事録の確認
2. 学習サポーター・大規模授業アシスタントについて
3. ゲスト講師について
4. 検討課題
- (1) 学部研究発表会について意見交換
- (2) ゲスト講師制度改革（試行期間中）
5. 今後の予定
- (1)ゼミ紹介パンフレットの原稿依頼＋ゼミ紹介 Weeks 対応アンケート
- (2)『2021年度 FD 委員会報告書』の作成（2月～）
- (3) 委員数の検討

第 10 回 日時：2023 年 2 月 21 日（火）13:40～@zoom 委員：6 1. 議事録の確認 2. 学習サポーター・大規模授業アシスタントについて 3. ゲスト講師について 4. 検討課題 (1)ゲスト講師制度改革（確認） (2)そのほか引き継ぎ事項 5. 今後の予定	
3.4③学部（学科）内において研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。	はい
3.4④上記項目で【はい】と回答した場合は、研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための取り組みの実績（開催日・テーマ・参加人数等）について記入してください。	
社会学部 第 32 回 2022 年 7 月 12 日（火） 「和解のプロセスと戦略的目的—紛争解決と平和構築の文脈から」 30 名 第 33 回 2022 年 11 月 5 日（土） 「日本の外国人労働者：受け入れ政策の変遷と現状、社会学部開設 70 周年記念シンポジウム」 30 名	

4 学生支援

(1) 特色・課題

以下の項目の中で、学部として特に「特色」として挙げられるもの、もしくは「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものを選択し、記入をしてください。	
【学生支援】 ・学生の能力に応じた補習教育、補充教育 ・学生の自主的な学習を促進するための支援 ・学習の継続に困難を抱える学生（留年者、退学希望者等）への対応 ・成績不振の学生の状況把握と指導 ・外国人留学生の修学支援 ・オンライン教育を行う場合における学生への配慮（相談対応、授業計画の視聴機会の確保等）	
特色	学生の自主的な学習を促進するための支援
2022 年度より必修の外国語科目 Basic English において、能力別クラス編成を実施している。英語能力の評価は外部試験を利用している。2021 年度以前は、学生が希望する担当教員のクラスを申し出て抽選でクラスが決まっていた。2022 年度からのクラス編成方法により、1 各クラスの人数が平準化された。2 担当教員が受講生の能力のばらつきへの配慮レベルを小さくでき、その分を内容充実に回している。	
その他、上記項目以外で学部として「特色」として挙げられるもの、または「課題」として今後改善に取り組んでいきたいものがありましたら記入してください。	
特色	
特になし	
課題	
・学生の自主的な学習を促進するための支援 演習 1、2、3（卒業研究）の履修率が低下している。コロナ禍による一過性の状況かどうか判断し難い。当面の対応策として、2 年生で履修する演習 1 に関する 1 年生への情報提供を強化する方向である。	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

5 教育研究等環境

(1) 点検・評価項目における現状

5.1 研究倫理を遵守するための必要な措置を講じ、適切に対応しているか。

5.1①学部として研究倫理の向上及び不正行為の防止等について、公正な研究活動を推進するための適切な措置を講じていますか。	はい
【根拠資料】	
学部生については、研究倫理教育の実施をゼミや入門科目において対応するように、教授会において情報共有している。(教授会議事録)	

III 2022年度中期目標・年度目標達成状況報告書

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図る(2022年度～2025年度) ・2022年度生の外国語教育の見通しが見え始める2024年度以降、外国語新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。 ・2018年度から導入したカリキュラムについて評価検討し、今後のカリキュラムについて検討する。 	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの運営状況について、教員間で情報共有を図る。 ・新カリキュラム下での学習の円滑化を図る。 ・2018年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集を行う。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議などで、カリキュラムの運営状況に関する情報共有ができています。 ・学生に対し、適切なガイダンスを実施する。 ・2018年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集蓄積がある。 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会、教務委員会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議を予定通り開催し、カリキュラムの運営状況について情報交換した。 ・春学期授業開始前に分野ごとにガイダンスが行われた。秋学期中には学科ごとにコースガイダンスが行われた。 ・2018年度から導入されたカリキュラムについての情報蓄積、評価検討が行われ、将来構想委員会において課題への取り組みが始まった。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・より細部の課題の有無について、各会議体での探索を行う。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	重点課題でもある2022外国語新カリキュラムが円滑に運営され、あわせて定例のガイダンス等も着実に実施されている点は高く評価できる。付言すれば、留学生への日本語教育についても、教授会を通じてかなり問題意識が共有された点の意義は大きいのではないかと。
	改善のための提言	各会議体において検討を深める一方、教授会全体としての情報共有にも配慮することが望まれる。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

		<ul style="list-style-type: none"> With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせでの質の高い授業を検討する。
年度目標		<ul style="list-style-type: none"> 教員による履修相談会、「先輩学生による相談窓口」（新規）、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスを着実に実施していく。 ポストコロナに向けて、教育効果の観点から、対面授業、オンライン授業、オンデマンド授業の使い分けについて検討に着手する。
達成指標		<ul style="list-style-type: none"> 教員による履修相談会、「先輩による相談窓口」（新規）、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスを実施している。 対面授業、オンライン授業、オンデマンド授業の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員相互で情報共有している。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> 教員による履修相談会、「先輩による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスを予定通り実施した。 対面授業およびオンライン授業について、履修者数や学生による授業改善アンケートの満足度をデータ化し、これらを基礎に今後の授業形態について検討した。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> 「先輩学生による相談窓口」を秋の演習（ゼミ）紹介期間にも開けないか検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	各相談会を円滑に実施できた点は、高く評価できる。またコロナ下での授業形態については、引き続き感染状況が変化する中でも、個々の事情も勘案しつつ、きめ細かく対応できている。
	改善のための提言	コロナ対応が若干落ち着きを見せる中で、改めてオンラインやオンデマンドの積極的・戦略的活用を検討する余地もあるのではないかと。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】	
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 初年次教育のうち基礎演習の在り方について、より効果的な教育内容、教育方法、少人数教育の一層の充実化を進める。 学部教育の中心的存在である演習1、2、3について履修率、卒業論文の提出率の向上を目指す。また、優秀卒業論文集の刊行を継続し、各演習での学習に活用する。 	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎演習の教育内容の向上のために、基礎演習担当者による懇談会の成果を活用する。 基礎演習各クラスの状況と問題点を把握する。 演習1、2、3の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法の検討にむけて、履修状況、運営実態を確認する。 優秀卒業論文集をweb公開し、活用しやすくする。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 基礎演習担当者による懇談会の成果を活用して、必要に応じて、基礎演習の教育内容の向上策を提案できている。 演習1、2、3の履修状況、運営実態を把握している。 優秀卒業論文集の刊行、web公開している。 	
年度末	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> 基礎演習担当者にアンケートを行った上で二回の懇談会を実施し、各クラスにおける指導法や学修成果について情報交換を行った

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

報告		<ul style="list-style-type: none"> ・専門演習の履修率および卒業論文の提出率の低下が懸念されるため、経年変化のデータを教授会で共有した。 ・前年度の優秀卒業論文集を刊行し Web 公開を行って、今年度の優秀卒業論文集の掲載論文を選考した。
	改善策	・専門演習において、3年次、4年次からの受入増について検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<p>基礎演習担当者懇談会の開催、専門演習の実態把握、優秀卒業論文集の公開・選考などについては、着実に行うことができた。</p> <p>とくに専門演習の履修率、卒論提出率については、過去に遡っての統計的な分析に着手された意義は大きい。</p>
	改善のための提言	<p>専門演習の履修率、また卒論提出率の向上に向けては、継続的な分析が望まれる。</p> <p>あわせて基礎演習のあり方についても、コロナの一段落を受けて、本格的な検討の余地があるのではないか。</p>
評価基準		学生の受け入れ
中期目標		<ul style="list-style-type: none"> ・安定した定員充足率が維持できるよう査定する。 ・高等学校の新教育課程の開始に対応して入試科目等の内容を検討する。
年度目標		<ul style="list-style-type: none"> ・安定した入学定員が維持されるよう、査定とそのための情報収集に努める。 ・入学センターから入試制度の検討のための情報収集を行う。
達成指標		<ul style="list-style-type: none"> ・安定した定員充足率が維持されている。 ・入試制度の導入を検討するため収集した情報を精査する。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した定員充足率が維持されている。 ・入試制度の精査結果を方式別合格者数に反映した。
	改善策	・2025 年度入学生からの新課程に対応して、入試制度の適切性について検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<p>安定した定員充足率を引き続き維持しており、また方式別合格者数も適切に確保している。</p> <p>新課程入試に関しても、教授会等で適宜情報提供を行っている。</p>
	改善のための提言	文科省による定員管理方法変更にかかわらず、各年度でなるべく定員充足率を安定させる。
評価基準		教員・教員組織
中期目標		・2022 年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。
年度目標		<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員の欠員見込み状況などを確認する。 ・専任教員の欠員について採用対応する。
達成指標		<ul style="list-style-type: none"> ・専任教員の欠員見込み状況が確認できている。 ・専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境政策論」および「社会問題とメディア」の採用人事を行うとともに、2022 年度末に 4 名の専任教員の退職を受けた欠員補充の方針を検討した。 ・将来構想委員会において、前回のカリキュラム改革で手付かずであった「視野形成科目」の今後のあり方について検討を行った。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	改善策	・「視野形成科目」の今後のあり方についての検討から、具体的な施策につながるよう検討する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	採用人事について、2件ともに年度当初から早めに進めることで、円滑に採用予定者を決定できた点は高く評価できる。
	改善のための提言	視野形成科目のあり方については、2018 カリキュラムの総括・評価とも連動させる余地があるのではないか。
	評価基準	学生支援
	中期目標	・オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、「先輩学生による相談窓口」(2022年度新規)、成績不振学生に対する個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。
	年度目標	・「先輩学生による相談窓口」(新規)を実施しキャンパス生活に関する不安に対応する。 ・「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を行う。 ・オフィスアワーの実施を徹底する。
	達成指標	・「先輩学生による相談窓口」(新規)の実施 ・「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果ができている。 ・オフィスアワーが設定されている。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	S
	理由	・今年度より4月に「先輩学生による相談窓口」を開設し、好評であった。 ・成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」を、例年通り実施した。 ・学生相談室が主催する研修会への参加を専任教員に呼びかけた。 ・各教員がオフィスアワーを設定し、学生の相談に対応した。
	改善策	・「先輩学生による相談窓口」を秋の演習(ゼミ)紹介期間にも開けないか検討する。 ・新システムを利用して、成績不振学生への新しいアプローチを模索する。また、成績上位者へのアプローチを模索する。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	「先輩学生による相談窓口」は、コロナ下でもある程度の通学が可能になった時期と重なったこともあり、非常に有意義な試みだったと評価できる。新入生等(延べ262人が参加)にとってだけでなく、相談に応じた学生スタッフにとっても貴重な機会となったといえる。 学生相談室による研修会は、発達障害という重要なテーマについての教員の関心を惹起できて有意義だった。
	改善のための提言	引き続きコロナへの対応が求められる一方、対面授業再開に伴う諸問題への対応も、今後の課題として位置づけていく必要があるのではないか。とくに学生のメンタル問題(発達障害に限らず、コロナ鬱～コロナ明けの動向)については注視していく必要があるのではないか。
	評価基準	社会連携・社会貢献
	中期目標	・多摩キャンパスで取り組んでいる多摩地域交流センター、グローバル教育センターなどが進める事業及び学部の共催協賛等の事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	社会連携を行っていく。	
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩地域交流センター、グローバル教育センターなどが進める事業を着実に実施する。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加を継続する。 ・学部 70 周年記念事業を行い、可能な範囲で学外にも公開する。 	
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業の実施。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加。 ・学部 70 周年記念事業を行い、学外にも公開されている。 	
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	<ul style="list-style-type: none"> ・10月19日に社会学部開設70周年記念公開授業「南極観測と国家・国際協力」を開催し、卒業生を中心に多数の参加者があった。 ・多摩地域交流センターおよびグローバル教育センターが進める事業について、専任教員の参加を呼びかけた。 ・大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などに引き続き協力した。
	改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度以降新設されるソーシャル・イノベーション・センターを介して、さらに社会貢献・社会連携の機会を探る。
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<p>70周年記念事業については、コロナ下でもあり大々的な展開は難しかったが、そのなかで南極とオンラインで結んでの公開授業は画期的だったと評価できる。</p> <p>あわせて11月15日の70周年記念シンポジウム（第33回社学コロキウム）「日本の外国人労働者：受け入れ政策の変遷と現状」も時宜に即したものだ。</p> <p>多摩地域交流センター、グローバル教育センター事業の実施、その他の連携も着実にいった。</p>
改善のための提言	<p>学内組織改編に加えて、学外の大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会への学部からの委員派遣年度であることから、機会を探る可能性がある。</p>	
<p>【重点目標】</p> <p>社会学部にとっては、2022年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図ることが最も重要である。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの適切な運営が図られているか専任教員間で情報共有を行う。また、1年生の履修登録などで適切な情報提供を行い、1年次学生が新外国語カリキュラムにスムーズに適応できるように修学支援を行う。</p> <p>【年度目標達成状況総括】</p> <p>2022年度から導入した外国語新カリキュラムは、履修登録のための情報提供を含め、概ね円滑に運営された。</p>		

IV 2023年度中期目標・年度目標

評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図る(2022年度～2025年度) ・2022年度生の外国語教育の見通しが見え始める2024年度以降、外国語新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度から導入したカリキュラムについて評価検討し、今後のカリキュラムについて検討する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの2年目の運営状況について、教員間で情報共有を図る。 ・新カリキュラム下での学習の円滑化を図る。 ・2018年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集を行う。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教授会、外国語教育委員会、学科カリキュラム運営会議などで、2年目のカリキュラムの運営状況に関する情報共有ができています。 ・学生に対し、適切なガイダンスを実施する。 ・2018年度から導入されたカリキュラムの評価検討のための情報収集蓄積がある。
評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ・With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせでの質の高い授業を検討する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による履修相談会、前年度開始した「先輩学生による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスを着実に実施していく。 ・ポストコロナに向けて、教育効果の観点から、授業改善アンケートなども活用しつつ、対面授業、オンライン授業、オンデマンド授業の使い分けについて検討を続ける。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・教員による履修相談会、「先輩による相談窓口」、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスを実施している。 ・対面授業、オンライン授業、オンデマンド授業の特長、科目ごとの利点と不利点について、教員ごとに検討する。
評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・初年次教育のうち基礎演習の在り方について、より効果的な教育内容、教育方法、少人数教育の一層の充実化を進める。 ・学部教育の中心的存在である演習1、2、3について履修率、卒業論文の提出率の向上を目指す。また、優秀卒業論文集の刊行を継続し、各演習での学習に活用する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習の教育内容の向上のために、基礎演習担当者による懇談会の成果を活用する。 ・基礎演習各クラスの状況と問題点を把握する。 ・演習1、2、3の履修率と卒業論文の提出率を向上させる方法の検討にむけて、履修状況、運営実態を分析する。 ・優秀卒業論文集をweb公開し、活用しやすくする。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習担当者による懇談会の成果を活用して、必要に応じて、基礎演習の教育内容の向上策を提案できている。 ・演習1、2、3の履修状況、運営実態の分析・検討が進められている。 ・優秀卒業論文集の刊行、web公開している。
評価基準	学生の受け入れ
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> ・安定した定員充足率が維持できるよう査定する。 ・高等学校の新教育課程の開始に対応して入試科目等の内容を検討する。

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 安定した入学定員が維持されるよう、査定とそのための情報収集に努める。 入学センターから入試制度の検討のための情報収集を行う。 入試経路別に入学後に対応可能な受入状況を想定しての入学者数に対する適切な比率を検討する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 安定した定員充足率が維持されている。 入試制度の導入を検討するため収集した情報を精査する。 入試経路によっては総入学者数に対する、入学後の対応可能な学習状況に適切な比率が示されている。
評価基準	教員・教員組織
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 2022年度から将来構想委員会、以降に人事構想委員会をもって、適切な専任教員の採用について検討し順次実行していく。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 専任教員の欠員見込み状況を確認する。 欠員状況について、適切な科目設定などを確認する。 専任教員の欠員について採用対応する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 専任教員の欠員見込み状況が確認できている。 欠員に対する適切な科目設定などが確認されている。 専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。
評価基準	学生支援
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、「先輩学生による相談窓口」（2022年度新規）、成績不振学生に対する個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 前年度新規に開始した「先輩学生による相談窓口」を実施し、ポストコロナのキャンパス生活に関する不安に対応する。 「個別学修相談会」を実施し、成績不振学生を対象として、履修指導を中心とした修学支援を行う。 オフィスアワーの実施を徹底する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> 「先輩学生による相談窓口」の実施 「個別学修相談会」を通じ、成績不振学生の修学支援の成果が出ている。 オフィスアワーが設定され、情報提供されている。
評価基準	社会連携・社会貢献
中期目標	<ul style="list-style-type: none"> 多摩キャンパスで取り組んでいる多摩地域交流センター、グローバル教育センターなどが進める事業及び学部の共催協賛等の事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。
年度目標	<ul style="list-style-type: none"> 多摩地域交流センターあらためソーシャル・イノベーションセンター（S I C）、グローバル教育センターなどが進める事業を着実に実施する。 大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加を継続する。 社会学コロキウムなどの研究集会について、可能な範囲で学外にも公開する。
達成指標	<ul style="list-style-type: none"> ソーシャル・イノベーションセンター（S I C）、グローバル教育センターが進める事業の実施。 大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などへの参加。 社会学コロキウムなどが実施され、学外にも公開されている。
<p>【重点目標】 社会学部にとっては、前年度に引き続き、2022年度から導入した外国語新カリキュラムの円滑な運営を図ることが最も重要である。</p>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。

【目標を達成するための施策等】

教授会、外国語教育委員会および年2回開催する「学科カリキュラム運営会議」において、新カリキュラムの適切な運営が図られているか専任教員間で情報共有を行う。また、1年生、2年生の履修登録などで適切な情報提供を行い、1年次、2年次学生が新外国語カリキュラムにスムーズに適応できるように修学支援を行う。

【大学評価総評】

2022年度の総評では、Withコロナ、ポストコロナに向けての対面授業／オンライン授業の選択等の授業運営のあり方、カリキュラム全体の中での配置、望ましい時間割編成についての検討が課題として求められていた。社会学部では、こうした課題を適切に把握し、授業形態の運営については、教育効果を高めるための方法という観点からの選択とその実践の結果について担当教員間で情報の共有を図っている。またカリキュラム全体の中での配置については、各コース、学科、科目区分ごとの教員グループで検討を促している。さらに時間割編成と履修年度進行については、時間割や教室割等を考慮しながら、初年度履修科目を中心に、2年生以上の専門科目でスムーズな理解が出来る様な先行知識の習得が可能になるように構成を検討している。

また2022年度総評にあった学生の学修成果の的確な把握についても、成績上位者・下位者のデータを分析し、授業改善アンケート結果と合わせて、行うべき課題について執行部と教務委員会で検討を行っている。あわせて総評で期待されていた社会貢献・連携についても、多摩地域交流センターを通じた継続的な取り組みが行われている。また、学習成果の欄で課題として掲げられていた外国語教育のカリキュラム改変の検証については、中期目標、2022年度重点目標として設定されており、質保証委員会からの提言も受け、運営状況の情報交換が行われている。今後は把握した結果に基づいた改善・向上が望まれる。

社会学部においては、今後もこれらの取り組みを継続し、新しいカリキュラム体系の円滑な運用と教育効果の検証とあわせて引き続き取り組んでいくことを期待したい。

【法令要件やその他の基礎的な要件の充足状況の確認】

2023年度自己点検・評価シートに記載された II 自己点検・評価（1）点検・評価項目における現状を 確認	法令要件やその他の基礎的な要件が充足していることが確認できた
<法令要件やその他の基礎的な要件が充足していない項目>	

※ 回答欄「はい・いいえ」は法令要件やその他の基礎的な要件の充足を点検している。